進む人口減少

新島村の人口の推移は、島ブームで観光客が押し寄せた昭和50年が3765人、昭和60年で3774人と若干増えているが、平成7年には3309人と大幅に減少し、平成14年には3155人と減少に波止めがかからなくなっている。

平成22年には2883人と3千人を割り込み、令和4年4月1日現在は2478名と、平成7年から四半世紀で831人も減少している。

本年度、新島保育園の園児数は32名（クラス平均10名）となっている。新島小学校入学者も9名で、10名を割り込んでいる。児童数から見ても、今後新島村は人口が減っても増える要素がなくなってきている。村ではそんな危機的な人口減少を見て、島外からの移住・定住事業を進めてきたが、減少はとまらない。

そこで村では、今年度から移住・定住事業の窓口を設置し、移住希望者や空き家所有者へのケアを図ると同時に、事業の外部委託に乗り出した。

10年ぐらい前に読んだ雑誌に、伊豆諸島の大島・御蔵島・八丈島を除く利島・新島・式根島・神津島・三宅島・青ヶ島は、50年以内に人口が0になると書かれていたが、何か真実味が見えてきた。

島外からの「移住・定住化」も素晴らしいが、他力本願に思えてしかたない。中国の一人っ子政策ではないが、「自立までの支援金を出してでも、一家で一人島に残っていただく」などの「自力でできる思い切った施策」は、これ愚考か？

平成14年、出川長芳村長時代に出された「新島村総合計画」基本構想では、「真の豊かさを享受できる村づくり」「快適で安心して暮らせる村づくり」「豊富で良好な自然条件を活かし、自助自立の精神を持ち、健康で豊かな村への発展が期待されます」等目標になっているが、人口減少を食い止めるカンフル剤はないのか？

議長　前田邦弘

編集後記

新型コロナ感染症も、減少傾向にあるもののまだ先が見えない。そんな中、新島村ではさまざまな問題を抱えている。経済・教育・環境・人口減少等ある中でも、「議長の目（アイ）ランド」でも取り上げられている人口減少は、切実な問題であろう。定住化対策・島しょ留学等々で、少しでも人口を増やす事を考える必要がある。

終わりに、議会では、現在行なわれている「ロシアによるウクライナへの軍事侵攻に断固抗議する決議」の発議が全員賛成の下副議長より提出され、全員賛成で採択された。この侵攻により、命を落とされたウクライナの方々のご冥福をお祈りいたします。（青沼 弘）

広報編集委員会メンバー
委員長：小久保 利佳
副委員長：木村 諭史
委員：前田 泉
：前田 寿夫
：青沼 弘